

## 天体望遠鏡で星を見よう

夏はキャンプや旅行など、屋外で活動する機会が増える季節ですね。夜に天体を観察するのも良い季節となりました。

天体観察を始めて何度か楽しんだり、本などで天体写真を見たりすると、望遠鏡で天体を詳しく見てみたいと思うようになってきます。

天体望遠鏡を使えば、月の表面のクレーターや、天の川銀河を構成

する星たちなど、肉眼では細かくて見えないものが観察できます。また、星雲や星団、遠くの銀河など、肉眼では暗くて見えないものも見るのが可能です。さらには、望遠鏡で見える天体の姿を写真に撮ることもできます。

実は、天体望遠鏡にはさまざまな種類や大きさのものがあり、それぞれ目的や使い方も異なります。今回のプログラムでは、私たちが個人で気軽に入手できるものをはじめ、公開天文台などにある大きな望遠鏡、またスマートフォンなどを使って写真を撮るのに特化したテレビ望遠鏡など、いろんなタイプの望遠鏡を紹介しながら、夏の天体観察におすすめの天体や、望遠鏡で観察するヒントを紹介します。天体望遠鏡での観望をやってみたいな、と思われる方にもご覧いただければと思っています。



企画・制作：嘉数 次人（学芸員）

  
KONICA MINOLTA

私たちは「宇宙」を作っている会社です。

— プラネタリウム生誕100周年 —

最新の光学・デジタル プラネタリウム機器の開発・製造から、独自の番組企画・制作・運営ノウハウに至るまで、プラネタリウムという“スペース”の可能性を追求し続けてまいります。

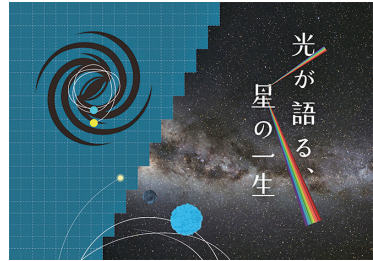
コニカミノルタ プラネタリウム株式会社

本社・東京事業所 〒170-8630 東京都豊島区東池袋3-1-3 TEL.(03)5985-1711  
大阪事業所 〒550-0005 大阪府大阪市西区西本町2-3-10 TEL.(06)6110-0570  
東海事業所 〒442-8558 愛知県豊川市金屋西町1-8 TEL.(0533)89-3570  
URL: <http://www.konicaminolta.jp/planetarium/>

画像：大阪市立科学館

## 光が語る、星の一生

「それはthe Sunですよ。恒星全部sunなんだから！」 これはこのプラネタリウム作品の英語音声を作るときの声優さんからの指摘です。そう、夜空に輝く太陽と恒星は同じ、その中心で起こる核融合反応の熱で、自ら光り輝く天体なのです。それが恒星、英語ではsunで（starとかfixed starも正解）、我が太陽はtheをつけるのですね。



そのsunたち、つまり星たちは、あるとき生まれ、そしてそのうち輝かなくなります。どんなところで生まれ、どれくらい輝き、最期はどうなるのか？ そんな星の一生を、特に太陽をモデルにし、他の恒星と比較しながら紐解くのが、この「光が語る、星の一生」です。太陽は、星座の星たちの典型的な距離、100光年も離すと肉眼では見えない7等星になる地味な恒星（100光年内外だと北斗七星の星たちなどがあります。）ですが、それが功を奏し、一生の中で、天の川銀河内の遠大な引っ越しができたという最新の話題も登場します。

そしてタイトルにある「光が語る」は、こうした比較や引っ越しの話は、星の光を虹色にわけて調べるスペクトルでわかるという紹介です。スペクトルは、聞いたことがあるかもしれませんが、そこからどう星の一生に関わる情報を読み取るのかということも触れます。

この作品を見る後に、みなさんの太陽や星の見方が少し変わるといいなと願っています。

企画・制作：渡部 義弥（学芸員）・飯山 青海（学芸員）

全天周デジタル配給作品  
「100年の永遠」

星の輝きで伝えたいことがある  
五藤光学研究所

100年の永遠  
—プラネタリウムが映す星空への想い—

100th ANNIVERSARY since 1926